

● 診療科の特色

1. 呼吸器外科では胸の中にある肺、縦隔などの病気を中心に手術を行っています。病気の診断、評価は呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携して行われ、手術で良くなる状況かどうかを判断しています。
2. 手術症例の6～7割は肺がんであり、命に関わる病気でもあるため肺がんには最も力を入れています。がんを治すことにこだわり、手術手技はもちろん、放射線、薬物療法を組み合わせることにより手術で治るかどうかが、ぎりぎりのところで差のつく高度な医療を提供できるよう心掛けています。当科では進行癌を扱うことが多く、今年度の手術症例の半数以上は術後補助化学療法が必要な肺がんでした。
3. 気胸、縦隔腫瘍などの多くの病気、難治性の病気などに対しても対応しています。最近増えている肺気腫、間質性肺炎、塵肺などに合併する難治性の気胸に対しては根気よく治療にあたる必要があり呼吸器内科、放射線科と話し合い、多くの治療戦略を立てて対応しています。
4. 胸腔鏡下手術に関してですが、当院では患者さんへの手術による体の負担、痛みを減らすため、また創部の綺麗さにこだわって、積極的に導入してきました。手術器具も年々進化しており、より安全になっています。さらに身体への負担を少なくする試みもありますが、当院の役割としては実績ある手技の技術を限りなく高めて患者さんに提供するスタンスです。
5. 2024年2月からロボット支援胸腔鏡下手術を開始しています。技術の進歩により手術がやりやすくなる場面が多くあります。多くの患者さんに還元できるよう努めていきます。
6. 初診の患者さん、そのご家族からは十分な時間をかけてお話しを伺うようにしています。十分な説明の上、皆が前向きな気持ちで治療へと進めるよう心掛けています。
7. 一般に肺の手術は難易度が高い手技とされています。安全、かつ確実な手術を提供できるよう日々努めています。手術に入るスタッフが固定しているため安定した医療を提供できていると思います。

● 入院診療実績

主要手術(全身麻酔) 2024年度(2023.4～2025.3) 手術件数 136件

	手術名	件数(ロボット手術)
1	原発性肺癌	83 (26)
2	転移性肺腫瘍	6
3	気胸	22
4	縦隔腫瘍	10 (1)
5	その他	15

● 研究業績

論文

- 1) 谷口 もこ
術後早期に再発したすりガラス影を伴う腸型腺癌の1例
岡山医療センター 年報,20,264-266,2025年3月24

学会発表

- 1) 気管腫瘍(上部、中下部)に対して胸骨正中切開により気管管状切除を行った3例から学ぶ
平見有二、津野夏美、賀来潤一、鳥越英次郎
第41回日本呼吸器外科学会学術集会 2024年6月1日

- 2) 肺区域切除術における CT ガイド下 VATS マーカー留置術の有用性
鳥越英次郎、平見有二
第41回日本呼吸器外科学会学術集会 2024年 6月 1日
- 3) 当院における非蝕知肺癌に対する治療戦略 VATS マーカーを用いた区域切除術の経験
鳥越英次郎、園部奏生、平見有二
第99回中国四国外科学会総会 2024年 9月 5日
- 4) 妊娠後期の双胎妊婦に対して気胸手術を行った一例
杉原太一、園部奏生、谷口もこ、鳥越英次郎、平見有二
第78回国立病院総合医学会 2024年 10月 18日
- 5) 肺靭帯から発生した高度石灰化を伴う石灰化線維性腫瘍の1例
谷口もこ、鳥越英次郎、平見有二
第86回日本臨床外科学会総会 2024年 11月 21日
- 6) 画像所見からは診断に至らなかった肺葉外肺分画症の1例
篠森一輝、谷口もこ、園部奏生、鳥越英次郎、平見有二
第86回日本臨床外科学会総会 2024年 11月 23日

講演会

- 1) 第12回岡山呼吸器外科カンファレンス
平見 有二 2024年 7月 6日
- 2) ロボットが変えるがん手術(肺がん)
平見有二
第18回 地域がん診療拠点病院市民公開講座 2024年 11月 2日
- 3) 当院における肺がん診療の流れ(外科領域を中心に)
平見有二
真庭・御津地域がん診療フォーラム 2025年 2月 27日

座長

- 1) デジタルポスター(ミニオーラル)1 肺癌1
平見有二
第86回日本臨床外科学会学術集会 2024年 11月 21日